

令和5年度 地域振興事業

事業名	事業概略
ニュースポーツを通じた地域スポーツ力向上事業	水俣市では、年齢や性別、体力に関わらず誰もが気軽に楽しめるアジャタやモルックなどの「ニュースポーツ」による健康づくりの取組みを行っている。そこで、ニュースポーツを通じて、地域の健康づくりや競技力向上、大会誘致による地域経済の活性化等に繋げるため、大会やイベントを実施するための器具を購入し、第一弾としてモルックの大規模大会をエコパーク水俣で開催する。また、令和5年11月に開催予定のアルティメットU23全国大会本選と連携した体験会や市内各学校と連携した体験会を開催することで、ニュースポーツを広く周知する。
マリンアクティビティによる地域振興事業	定着してきた水俣のマリンアクティビティ・海の文化の更なる拡大を図り、これまで以上に地域振興に寄与するため、2人乗りアウトリガーカヌーを導入し体験イベントやシュノーケリングと連携した体験会等を開催する。
History of 湯の児・湯の鶴温泉	湯の児・湯の鶴両温泉地は非常に長い歴史を持っており、湯の児温泉は令和7年度(2025年度)に開湯100周年を迎える。そこで、今後もこの歴史を紡ぎ、水俣市の観光の柱として存続させるべく①フォトコンテストの開催②湯の児・湯の鶴温泉調査及びフリーペーパーの作成③湯の児温泉100周年記念ロゴの制作を行う。
もやい直し事業「もやいフォーラム」	「バリアフリー」をテーマとして基調講演を行い、その後講師を交え水俣の障がい者や高齢者等の当事者と福祉関係者をパネリストにパネルディスカッションを開催する。
演奏家派遣アウトリーチ事業	熊本県立劇場が行っている演奏家派遣アウトリーチ事業を活用し、市内小中学校や市自立支援室に演奏家を派遣し、1～2コマ程度の演奏を含む授業を行う。
ハゼ産地の再生と基盤強化による地域振興	ハゼの生産量拡大に向け、器具を購入し、荒廃したハゼ林の整備する(老木の伐採や剪定等)とともに、チップ化したハゼの木をボイラーの燃料として商品化する等して生産者の新たな収入源の創出を図る。その他、苗木の植樹イベントの開催や花粉交配用ミツバチの導入及び結実量の研究等を行う。
【若年層】 私たちの「そさえてい5.0」	鳥獣被害に悩む地域の被害軽減のため、罠製作・設置等を行う。その他にも、部員の狩猟免許(わな猟)の取得や農地見学・設置場所の協議、講師によるワークショップ・講和等を実施する。
【若年層】 水俣・芦北地域活性化プロジェクト	地域活性化プロジェクトの一環として、地域で活躍されている生産者や菓子職人を講師として招き、地域の特産品や観光産業等について学習を行う。また、原料や素材選びを重視した新商品開発及び改良を実施する。その他、メディアへの情報発信について専門的知識を持つ地域の方を講師として招聘し、SNS等をより効果的に活用して、本事業の取組みを広く発信する。

【若年層】
地元建設業の魅力を発信し産業振興のために水高生にできること
～次世代の地域を担う人材育成に向けて～

地元建設業の人手不足等の課題解決のため、熊本県建設業協会芦北支部と共同で地元建設業の魅力を発信し、建築を学ぶ人材の育成及び地元産業の振興に引き続き取り組む。具体的には、建築コースの生徒を対象にした小型車両系建設機械、高所作業車の運転特別教育や、習得した技術を用いて管内の中学校等へ出前授業等を実施する。

岬から始まるオリーブの里づくり事業

令和4年度事業では、オリーブの苗木や支柱の購入等オリーブ栽培の基盤を整備した。令和5年度事業では、引き続きオリーブの試験栽培管理に必要な資材を購入するほか、新しく加工品開発の準備・試作に取り組み、町内へのオリーブ栽培の普及と新たな産業創出を生み出す。

SDGsの取組み（作業の効率化）

NPO法人ばらん家では、持続可能な社会実現のため、化学肥料を一切使用しない自然農法でのサトウキビ栽培し、そのサトウキビを原料に黒糖を製造している。令和3年度は鳥獣被害防止としてソーラーパネル電柵を設置し、令和4年度は、良質な堆肥を製造するため堆肥舎を建築した。令和5年度は、乗用耕運機を導入し、職員が実施していた耕作作業を障がい者自ら機械を使用して耕作できるようにすることにより、作業の効率化・工賃アップに取り組む。

【若年層】
光合成細菌がカンキツ栽培に与える効果の研究

崇城大学発ベンチャー企業「Ciamo」が開発した「農業に使える光合成細菌」による、スイートスプリングへの果実肥大や糖度上昇等の効果検証に引き続き取り組む。
また、草刈りや研究エリアを守るための害獣対策等園地の環境整備も実施する。

住民参画型アートプロジェクト
小田原のどかつなぎプロジェクト

彫刻家・彫刻研究者の小田原のどか氏を招聘し、町内16体の彫刻の人気投票を選挙を模して行う等住民の野外彫刻への関心を喚起するとともに、公共空間における彫刻やモニュメントと社会の関りについて住民とともに考察する。また、これらを成果展で展示し記録集を刊行するほか、成果展開催期間中にはワークショップやトークイベントを実施する。